

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 益田清風高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和4年1月19日(水) (書面開催につき資料等配付)
令和4年2月8日(火) (議事等回答提出日)
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者

会長	中切 幹男	元萩原南中学校長
副会長	布目美智男	山喜建設株式会社 社長
委員	熊崎賀代子	下呂市観光商工部観光課長
	小出 義彦	元下呂小学校長
	島崎ひとみ	萩原スポーツクラブ副理事
	二村 彰洋	育友会長
	皆越真佐代	NPO飛騨小坂200滝
	向野 優子	NPOみらいろ理事長
	森本翔太郎	馬瀬建設株式会社 代表取締役専務
学校側	今井 一三	校長
	近藤 和彦	教頭
	金山 実直	事務長
	可知 嘉文	教務主任
	石丸 浩国	生徒指導主事
	上田 界堂	進路指導主事
	今井 誠	特別活動部長
	塚中 一成	保健安全部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 今年度の取組についての反省及び評価(学校関係者評価)

① マニフェストについての自己評価

意見1: 課題、問題点を明確にし、取り組もうとする姿勢はとてもよい。

意見2: コロナ禍でこれまでと違う指導をしなくてはいけないことが多く、戸惑いも多いのではないかと。こんな時こそ生徒と共に考え学び、生徒の力を伸ばしてもらいたい。

② 学習指導

意見1: 個々の生徒への丁寧な対応に力を入れており感謝している。粘り強く生徒に寄り添う気持ちを持ち続けてほしい。

意見2: 家庭学習時間の確保のために、生徒自身が「何のために学んでいるのか」、「その課題が好きである」、「課題に興味がある」という視点をもつことが大切である。

意見3: 一つでも得意な学びをもてるように授業構成をしてほしい。探究する意欲、調べ学習の成果をどう発展させていくかが重要である。

意見4：タブレットの利点を生かして大いに活用できるとよい。生徒同士でタブレットを使ってわからないところをお互いに教えあったり、できる生徒がチューターとして勉強を教えたりしてほしい。

意見5：ICTを活用して、オンラインで外部講師の授業や海外の高校との交流など、刺激を受けるような授業ができるとよい。

③生徒指導

意見1：職員が昇降口で指導すると、担任している生徒以外の様子もよくわかるので、よい取組である。

意見2：校則を全て生徒に任せている学校もある。自由を尊重することも大切だが、集団で学んでいること、今後社会に出たときにどういった考え方が大切なのかを校則を考えることで学べるとよい。

意見3：SNS関連については、現在はトラブルもなく安心してしまいがちだが、表に出ていないだけかもしれないという緊張感が必要である。

④進路指導

意見1：国公立大学への進学者を増やし、難関大学に進学できるイメージを保護者に付けられるとよい。

意見2：地元企業との連携により地元就職60%は大きな成果である。

意見3：Uターンガイダンスを企業に参画していただきぜひ実現してほしい。進学・就職希望者とも卒業した先輩の交流会があるとよい。

意見4：総合学科の食文化コースを見学させてもらったが、専門的で地域と連携した体験的な学習となっており素晴らしい。

意見5：オンラインによりコミュニケーション能力が下がっているとよく聞く。企業の面接においては対面が必須なので感染に気を付けつつ丁寧な指導をお願いしたい。

⑤特別活動

意見1：コロナ禍で大半の行事が中止され、生徒同士の力や学びを発揮する機会が減っている。しかし、週末の朝市（トマトランド）を実施したり、小坂のリバーベース、奉仕作業などで頑張ったりした生徒もいる。体験を通して、「ここに就職したい、農業もいいな」と思う生徒が増え、進路の選択肢が多くなるとよい。

意見2：部活動は、各部が明確な目標を設定し、粘り強く取り組ませる指導の継続をお願いしたい。

意見3：各種外部人材の有効活用がポイントである。

⑥保健安全

意見1：スマホによる健康チェックで体調の把握が簡素化できていることは大変よい。体調だけでなく、精神的な状態がわかるアンケートなどができると生徒指導の観点からも気づきがあるのではないかと。

(2) 地域との関わり・交流への提言

意見1：トマトランドは素晴らしい活動である。高校生の笑顔に引きつけられ行きたくなる。地域に貢献する学校として、素直な生徒を育成していると思う。

意見2：地方創生をテーマにした教育が必要である。下呂に居住している間にどれだけ地域と関わり

をもってもらえるかが地域への定着や将来的なUターン、Jターンにつながる。高校生が考えた町おこしプランを地元企業が支援するなど、まちづくりの手法等を学び、地域の大人とともに地域課題を解決できるとよい。

意見4：コミュニケーション能力の向上。コミュニケーションが下手な生徒が昨今多い。学科を問わず、老人ホーム訪問や小学生の学習支援ボランティアで経験してはどうか。

意見5：保育園、小学校、中学校への出張授業や共同体験を行い、それぞれの年代に高校生像を見せてつながりをもってほしい。高校ならではの学びを中学生に伝えることで中学生の進路を考える参考になる。本校生徒には、地域のお兄さんお姉さんとして活動してほしい。

意見6：コミュニティスクールを立ち上げている現在、地域参画をお願いしたい。小中学校の生徒、教員、地域の人がメンバーとあるが、高校生の意見も聞いたり、一緒に活動したりすることで地域がつながっていけるとよい。

(3) 令和4年度スクール・ポリシーの承認

第2回運営協議会で検討したスクール・ポリシーについて、全委員より承認を得た。

(4) 会議のまとめ

本年度より学校運営協議会を設置したが、3回のうち2回が書面での開催となり、委員には生徒の姿や学校の様子がわかりにくかったと思う。

次年度はコロナ禍でも活動が伝わるような工夫をしていきたい。

委員からは、「下呂市で唯一の学校」としての期待が強く伝わり、地域とのつながりをより強化していかなければならないと考えている。